

元コピーライター・「禁言迷言・駄じゃれの泉」(浪速社刊)などの著者・若狭芳生

- 8 喜撰法師 ①然と=鹿と、澄む=棲む、宇治=憂つ。②憂鬱の漢字と宇津井健氏は神経痛(回文)。③十二支の遊び:兎・辰・巳・午を鹿にして人を笑わせた。\*鹿を指して馬となす(秦の趙高)。
- 9 小野小町 ①夜に降る=世に経る=振る、長雨=眺め。深草少将の百夜通い。②4歌仙+小町・業平何かヒソヒソ=6歌仙。三日月堂花仙。③「薩摩芋栗より 旨い13里」
- 12 僧正遍昭 ①vs 小町「世をそむくこけの衣はただ単衣かさねばうとしいざ二人寝ん」。②宝塚の芸名。③パロディ:乙女(おとめ)と太目(ふとめ)。「甘いもの脂肪蛋白差どしめよ 乙女の姿ずっととどめん」 甘いもの:婆婆ロア・ユルキャラメル・君をアイスクリーム。④神と髪と紙。:「ハレルヤ讚美歌南無阿弥陀仏無駄な説教ケセラセラ」(NHK 番組)。「ラブホテル入れ歯忘れの高齢化あまりのことに口をあぐり」。山号寺号遊び:おかみさん拭き掃除・欲しがる遺産群がる法事・解けない計算書けない漢字。
- 16 中納言行平 ①因幡=往なば、松待つ、猫も帰り来ん②須磨に蟄居。光源氏の須磨の巻や海女ちゃん松風村雨姉妹との悲恋の貴公子 vs. はしたない中納言:「腰蓑の上からつねる中納言」。③行平鍋。
- 97 権中納言定家の歌「…焼くや藻塩の身も焦がれつつ」と裕次郎 ♪。火事場の纏。
- 17 在原業平 ①伊勢物語と東国放浪「…いざ言問はば都鳥…」。小町のろくろ伝説「秋風の吹くにつけてもあなめあなめ小野とは言うはじ芒生いける」。②落語:枕詞の千早花魁と神代に振られた大関竜田川、オカラくないに水潜るとは。③おいらん=尾要らんで男を騙す。④井戸に蓋をした福井県。瓜と爪。タ(ネ)ヌキ蕎麦。⑤パロディ「知ったかぶるレシピも聞かず竜田揚げ粉くないに油潜るとは」。⑥南部藩の盲絵暦と般若心経典。
- 22 文屋康秀 ①vs 小町「詫びぬれば身の浮き草の根を絶えて誘う水あらば往なんとぞ思ふ」 ②山+風=嵐、「雪降れば木毎に花の咲きにけりいづれを梅おとわきておらまし」 紀友則。櫻・立+女=妾。山の神に「拾う神ないから僕を捨てないで」。

- 23 大江千里 ①千々に1つ:千夜一夜など。一日千秋・1日中山道・一攫千金。千秋と春樹:回文本「またたび浴びたタマ」(文春刊)「蒸らし股白む」。アナグラム「君遥か村」②「七重八重山吹の花は咲けども山吹きの実の(蓑)1つだになきぞ悲しき」。

■61 伊勢大輔の歌

「いにしへの奈良の都の八重櫻今日九重に…」

:いにしへと今日、九重(=宮中)部屋・千代の富士と回文「肉の多い大の国 にくのおおいおおのくに」。③「月見れば月見る月は多けれど…」のサウサンペイのパロディ「次々とツケ来る月は多けれどツケ払う月はこの次の次」、ハケとハゲ。、椅子と伊豆。

- 31 坂上是則 ①忠峰おと静御前の歌「吉野山(み吉野の)峰(山)の白雪踏み分けて入りにし人の後ぞ戀しき(訪づれもせぬ)」。義経千本桜の“静かにただ呑む(忠信)”・牧水「白玉の齒にしみとうる秋の夜は酒は静かに呑むべかりけり」。がの舞った4月8日(火が強い)と“おシャカ”。

- 33 紀友則 ①百人一首の一番人気:「ひ」の3連発と鎌倉カルタの「引き潮にひよっこり顔出す和賀江島」。セブンイレブンの広告コピー。李も桃も桃の内。和泉式部の歌「白露も夢もこの世も幻も譬えて言へば久しかりけり」。

- 47 曾禰良忠 ①由良(紀淡海峡の歌枕)にゆらゆらお響かせた。裕次郎♪「…恋の行方なんか分かりはしない…」。海の道:静岡県道223(富士山)号線。

- 58 大貳三位 ①猪名=否、ありませんわの有馬山、そよ=そうよ。②有馬稻子と大阪夕陽丘高女～宝塚。③従二位家隆の夕陽庵「契あれば難波の里に宿り来て波の入り日お拝みつるかな」。

■98 従二位家隆の歌「かぜそよぐならの小川の夕暮は…」④高倉健でパロディ「風そよぐ北の大地の夕暮は襖ぞ黄色のハンカチなびける」。

- 77 崇徳院 ①上方落語:男女の仲がわかれても=鏡がわかれても、逢わん=買わん。②いとはんとこいさん:だいこんとごぼう 芭蕉「鞍壺小坊主乗るやだいこ引き」。松鶴と次郎長の“う”は鵜飼に拾われた。理系女子やマック。これでお仕舞い。感謝! 続いて第2部へ。